

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	文学の地域資源としての活用——駿河・伊豆エリア（地域振興）				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋

講演題目	文学の地域資源としての活用——駿河・伊豆エリア（地域振興）
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】文学作品を「地域の文化資源」としてとらえ、文学を通して地域の魅力を広く発信していくことが本研究の目的である。「文化資源」という概念は、木下直之氏の発案によるものだが、文化芸術を活かした地域の振興、あるいは地域教育とツーリズムという形で、様々な取り組みがされている。その実践として、2018年度以来、焼津小泉八雲記念館（焼津市）、藤枝市文学館（藤枝市）、中勘助文学記念館（静岡市）の3館と連携し、2019年度には芹沢銈介美術館（静岡市）を加えて、駿河の文化施設をめぐる新しい〈文学ツーリズム〉の可能性をさぐる「するが文化の散歩道」ツアー企画を提案・開催。コロナ禍を経て、2020年度から4館を巡るスタンプラリーを開催している。</p> <p>【成果】駿河・伊豆エリアでのこれまでの活動を発展させる形で、今年度は12月に静岡県文学館連携シンポジウム2024を開催した。主な活動は以下の3点。</p> <p>〔伊豆〕第13回太宰治生誕祭（沼津桜桃忌）での朗読イベントの開催。6/16に太宰治が「斜陽」を安田屋旅館（三津浜）で桜桃忌にあわせた朗読イベントを行った。6/19「静岡新聞」東部版に写真入りで掲載。</p> <p>〔駿河〕「するが文化の散歩道 スタンプラリー」台紙パンフの作成とノベルティグッズの制作（7-9月）、スタンプラリー vol.7 の開催（10/6~12/8）。各館に作成したオリジナル猫キャラクターのデザインを一新、バッグのデザインに活かした。昨年に続き猫キャラクターは非常に好評で、会期中に用意したノベルティがすべてなくなり増刷。ゼミ生が各館を訪問し、SNSで情報を動画配信（15本）。その効果もあって、延べ参加者が例年の1.5倍となった。「静岡新聞」11/6に写真入り記事で大きく紹介されている。</p> <p>〔静岡県文学館連携シンポジウム2024〕12/7に県の助成を受けて本学小講堂で開催（参加約90名）。基調講演に萩原朔美氏を招き、第二部シンポジウムでゼミ学生からSNSによる文学館情報の発信について事例報告。井上靖・小泉八雲記念館の学芸員を迎えて、パネルディスカッションを行った。県レベルの文学館連携シンポジウムとしては初の試みで、「静岡新聞」時論12/13でも取り組みが紹介された。</p> <p>【今後の展望】「するが文化の散歩道」企画は冊子やスタンプを刷新し、各館の猫キャラクターも好評を得ている。県内で文学館同士が連携して行う企画はほかになく、〈文学ツーリズム〉の取り組みはアイデアを出し合う新しい場の創出に繋がっている。その延長として、文学館連携シンポジウムが開催できた意義は大きい。さらに連携の輪をひろげ、地域振興・教育という視点からも成果あるものとしていきたい。</p>